

事務事業名		大船渡市遺族会運営支援事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登録事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略登録事業	
政策体系	政策名	9 9 関連する政策なし		事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 不明 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	9 9 関連する施策なし			
	基本事業名	9 9 不明			
根拠法令				予算科目 会計 款 項 目 事業 1 3 1 1 10	
所属	部課名	生活福祉部地域福祉課		事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(1～4以外)	
	課長名	三上 護			
	係名	生活支援係	電話 27-3111		
	担当者	佐々木 伶	内線 184		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
①事務事業の内容 任意団体である大船渡市遺族会の事務局業務を行う。 ②業務の内容 主に各種慰霊行事の参加者の取りまとめや、団体の経理事務、会議資料の作成等を行う。 ③事業費の内容 事業費はなし。 ④その他 団体の活動としては、遺族を対象とした各種慰霊行事への参加、会独自の参拝行事であるお籠り参拝の実施、政治活動、選挙運動等がある。				総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称 単位	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア 各種会議開催回数 回	
大船渡市遺族会代議員会等の各種会議開催		イ	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		ウ	
大船渡市遺族会代議員会等の各種会議開催		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		名称 単位	
遺族会会員		カ 遺族会会員数 人	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		キ	
遺族会の事業運営に関する事務を適正に処理し、会員の活動を支援する。		ク	
④ 結果(基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
大船渡市遺族会の事業を円滑に実施する。		名称 単位	
		サ 監査指摘事項 件	
		シ	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(目標)	2年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円					
	事業費計(A)		千円	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	360	360	360	360	360
		人件費計(B)	千円	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440
		トータルコスト(A)+(B)	千円	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440
⑤ 活動指標		ア 回	4	7	3	3	5	5
⑥ 対象指標		カ 人	700	690	682	666	700	700
⑦ 成果指標		サ 件	0	0	0	0	0	0

事務事業ID	167	事務事業名	大船渡市遺族会運営支援事業
--------	-----	-------	---------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 平成7年度当時、県内の遺族会組織全体で、市町村への遺族会事務移管の動きがあり、本市においても大船渡市遺族会から市への事務局移管の要望を受けた。一時は移管を受けない方向での検討もなされたようだが、他市町村の殆どが事務局移管を受けるに至ったことなどから、最終的に事務局移管を受け入れることとなり、援護担当課に事務局を置くこととなった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
 戦後74年が過ぎ、遺族も高齢化している。また、事務局を置く自治体も、次第に少なくなっている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 特になし。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】 意図することは、上位施策のどの項目にも該当しない。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を本市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】 団体の活動内容は、各種慰霊行事に参加し、戦没者を慰霊すること、独自で研修等を実施し、会員の親睦を深めることが主な目的となっている。今後、市として税金を投入して行うべき事業かどうかを改めて検証する必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 ・遺族会の会員は戦没者等の遺族に限定されており、対象を拡大させる余地はない。 ・団体の事務局業務のため、意図の拡充余地はない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 事務局業務として成果を向上させる余地は少ない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 団体は、①民間に委託する。②自主運営する。③団体を解散し、各地区単位(旧町単位)の活動とする。といった選択を迫られることとなる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 市としての負担(支出)が伴わないため、人件費以外の事業費はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ①民間に委託する。②自主運営する。③団体を解散し、各地区単位(旧町単位)の活動とする。といった方法が考えられる。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 事業は会費のみで運営されているが、事務局職員の人件費360時間分は一般財源であり、自主運営している他の任意団体との公平性に欠ける。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果																					
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) → ③ 終了・廃止・休止	左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 遺族会の存在意義と社会情勢を照らし合わせ、当面は現状維持とするが、遺族会のみ市の支援を受けて活動するのは、他の類似団体(英霊にこたえる会、傷痍軍人会)が自主運営していることと比較すると、公平性に欠けるという見方もあるため、将来的には市で行っている事務局業務の移管を検討する必要がある。なお、会員の高齢化が進んでおり事務局移管は困難な面も考えられることから、慎重に検討する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	当面は現状どおり継続し、国や県、他自治体の動向を注視しながら、運営方法を検討する。